

SMA コネクタ結線方法(作り方)

V-7801DG/KY (RG-174/U)

V-7804DG (RG-174/U)

V-7801AG (RG-58/U)

V-7804AG/KY (RG-58/U)

推奨圧着工具 HT-5050V1

※V-7801AGのコンタクトは非対応

SMA コネクタ結線方法(作り方) V-7801DG/KY (結線例としてRG-174/Uケーブルを使用)

電子部品販売 ISA Web
<http://www.isawebshop.jp/>

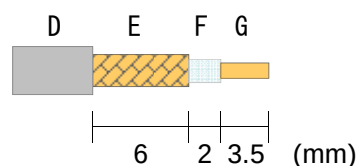
■ 部品の名称と被覆剥き寸法図



部品の名称

A … コンタクト
B … フェルール
C … ボディ

被覆皮剥き寸法図



各部の名称

D … 外部被覆
E … 編組
F … 絶縁体
G … 内部導体

! ※ 編組を長めにしておき、フェルールをカシメる直前に切り落として調整する方法もお薦めします。

■ 結線方法



① ケーブルにフェルールを挿入し、上記の「被覆皮剥き寸法図」のように剥きます。編組を長めにしておき、フェルールをカシメる直前に切り落として調整する方法もお薦めします。

! フェルール部分の同軸ケーブル補強をする場合、熱収縮チューブ(シュリンクチューブ)を入れておきます。



② コンタクトを挿入し、圧着工具でカシメます。カシメ前に、絶縁体とコンタクトに隙間がある場合は、内部導体の長さを調整して隙間が無いようにしてください。

! カシメ前に、コンタクトを挿入した状態で、ボディを隣に置いてみて外部被覆の切り出し位置が正しいかどうか再度確認してください。

六角1.07mm近辺



③ ボディを挿入します。ボディ挿入時、カチンと音がして抜けなくなります。コンタクトの先端が、ボディ面より0.8mm程度マイナスになるのが適正位置です。

六角3.25mm近辺



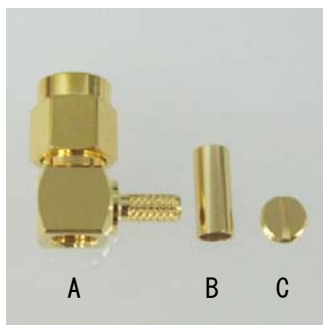
④ フェルールを挿入し、圧着工具でカシメて完成です。編組を長めにする方法の場合は、カシメ前に余分な編組を切り落としてください。

①で熱収縮チューブ(シュリンクチューブ)を入れている場合は、熱収縮させてフェルールと同軸ケーブル部分を補強してください。

SMA コネクタ結線方法(作り方) V-7804DG (結線例としてRG-174/Uケーブルを使用)

電子部品販売 ISA Web
<http://www.isawebshop.jp/>

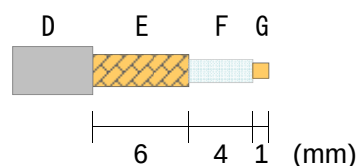
■ 部品の名称と被覆剥き寸法図



部品の名称

- A … ボディ
B … フェルール
C … ネジ詮

被覆皮剥き寸法図



各部の名称

- D … 外部被覆
E … 編組
F … 絶縁体
G … 内部導体

! ※ 編組を長めにしておき、フェルールをカシメる直前に切り落として調整する方法もお薦めします。

■ 結線方法



- ① ケーブルにフェルールを挿入し、上記の「被覆皮剥き寸法図」のように剥きます。編組を長めにしておき、フェルールをカシメる直前に切り落として調整する方法もお薦めします。

! フェルール部分の同軸ケーブル補強をする場合、熱収縮チューブ(シュリンクチューブ)を入れておきます。



- ② 内部導体に充てハンダしておきます。

上から見た図



- ③ ボディを挿入します。内部導体がボディのU字センターピンに挟まる様にします。内部導体の長さや位置、絶縁体の長さがちょうど良いか確認します。この時、編組の長さも調節しておくとも良いです。

! フェルールをカシメる前の最終確認になりますので、よく確認してください。

六角3.25mm近辺



- ④ フェルールを挿入し、圧着工具でカシメます。編組を長めにする方法の場合は、カシメ前に余分な編組を切り落としてください。



上から見た図



- ⑤ 内部導体とボディのU字センターピン部分をハンダ付けします。



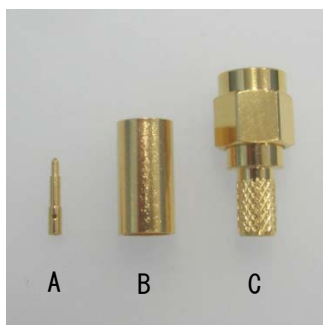
- ⑥ ネジ詮をドライバーで回して完成です。

①で熱収縮チューブ(シュリンクチューブ)を入れている場合は、熱収縮させてフェルールと同軸ケーブル部分を補強してください。

SMA コネクタ結線方法(作り方) V-7801AG (結線例としてRG-58A/Uケーブルを使用)

電子部品販売 ISA Web
<http://www.isawebshop.jp/>

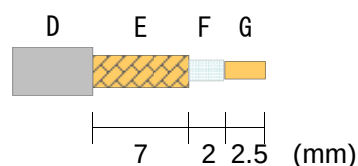
■ 部品の名称と被覆剥き寸法図



部品の名称

A … コンタクト
B … フェルール
C … ボディ

被覆皮剥き寸法図



各部の名称

D … 外部被覆
E … 編組
F … 絶縁体
G … 内部導体

! ※ 編組を長めにしておき、フェルールをカシメる直前に切り落として調整する方法もお薦めします。

■ 結線方法



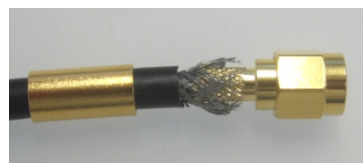
- ① ケーブルにフェルールを挿入し、上記の「被覆皮剥き寸法図」のように剥きます。編組を長めにしておき、フェルールをカシメる直前に切り落として調整する方法もお薦めします。

! フェルール部分の同軸ケーブル補強をする場合、熱収縮チューブ(シュリンクチューブ)を入れておきます。



- ② コンタクトを挿入し、ハンダ付けします。ハンダ付けには高度な技術が必要です。熱により絶縁体に変形した場合、ボディを通すために加工が必要です。圧着工具六角1.07mmで圧着できますが、サイズが合わないため、潰れて余分な部分を切り取る必要があります。(HT-5050V1圧着工具は非対応・保証外です)

! ハンダ付け前に、コンタクトを挿入した状態で、ボディを隣に置いてみて外部被覆の切り出し位置が正しいかどうか再度確認してください。



- ③ ボディを挿入します。コンタクトの先端が、ボディ面より0.8mm程度マイナスになるのが適正位置です。適正位置で固定されず抜ける(ずれる)場合があります。注意してください。

六角5.41mm近辺



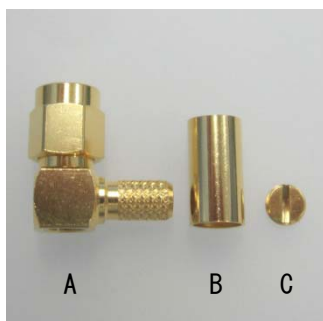
- ④ フェルールを挿入し、圧着工具でカシメて完成です。編組を長めにする方法の場合は、カシメ前に余分な編組を切り落としてください。ボディと一緒にカシメないよう注意してください。

①で熱収縮チューブ(シュリンクチューブ)を入れている場合は、熱収縮させてフェルールと同軸ケーブル部分を補強してください。

SMA コネクタ結線方法(作り方) V-7804AG/KY (結線例としてRG-58A/Uケーブルを使用)

電子部品販売 ISA Web
<http://www.isawebshop.jp/>

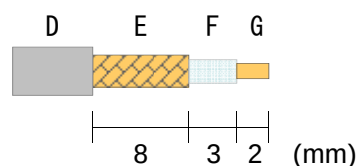
■ 部品の名称と被覆剥き寸法図



部品の名称

- A … ボディ
B … フェルール
C … ネジ詮

被覆剥き寸法図



各部の名称

- D … 外部被覆
E … 編組
F … 絶縁体
G … 内部導体

※ 編組を長めにしておき、フェルールをカシメる直前に切り落として調整する方法もお薦めします。

■ 結線方法



- ① ケーブルにフェルールを挿入し、上記の「被覆剥き寸法図」のように剥きます。また、内部導体に充てハンダしておきます。編組を長めにしておき、フェルールをカシメる直前に切り落として調整する方法もお薦めします。

フェルール部分の同軸ケーブル補強をする場合、熱収縮チューブ(シュリンクチューブ)を入れておきます。

上から見た図



- ② ボディを挿入します。内部導体がボディのU字センターピンに挟まる様にします。内部導体の長さや位置、絶縁体の長さがちょうど良いか確認します。この時、編組の長さも調節しておくとも良いです。

フェルールをカシメる前の最終確認になりますので、よく確認してください。

六角5.41mm近辺



- ③ フェルールを挿入し、圧着工具でカシメます。編組を長めにする方法の場合は、カシメ前に余分な編組を切り落としてください。



- ④ 内部導体とボディのU字センターピン部分をハンダ付けします。



上から見た図



- ⑤ ネジ詮をドライバーで回して完成です。

①で熱収縮チューブ(シュリンクチューブ)を入れている場合は、熱収縮させてフェルールと同軸ケーブル部分を補強してください。